

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名： 松田 榮津子 所属： 京都市立横大路小学校 記録日：2017 年 2 月 17 日
キーワード： 読み書き支援・学び方・見通し・安心・自信

【対象児の情報】

- ・ 学年 小学 5 年生男児
- ・ 障害名 ADHD・LD(書き困難)・うつ
- ・ 困難の内容
 1. 書き困難が顕著で、漢字が分からないと書くことをやめてしまう。
 2. 読めない漢字があると不安になり、読むことをやめてしまう。
 3. 見通しが持ちにくいと不安を感じ、感情のコントロールがとりにくくなる。

【活動目的】

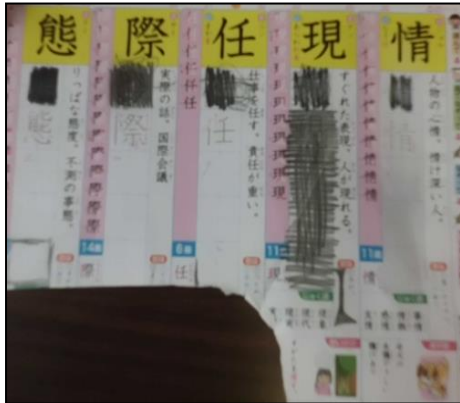
- ・ 当初のねらい
 - 書きの困りを減らす。
 - 読めない漢字を読めるようにする。
 - 気持ちを安定させる。
 - 自分に合う学習の仕方、自信をもつ。
- ・ 実施期間 平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月
- ・ 実施者 松田 榮津子
- ・ 実施者と対象児の関係 LD 等通級指導教室担当

【活動内容と対象児の変化】

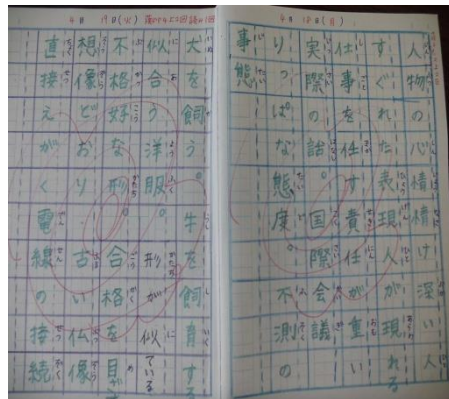
・対象児の事前の状況

1. 書きの困り

書き方や漢字が分からないと苛立ちから、ノートやドリル、プリントを破き、殴り書きをして書くことをやめた。黒板を視写をする時も、きれいに書けないと書いたものを全部消したり、どこに書くか分からなくなると、塗りつぶしたり、破いたりした。ドリルの視写の宿題は、母がどこをやるのか分かるように下書きをしたり、マスを大きくしたり、マスの枠の色を変えたりして少しでも意欲が出るようにしていた。



4月 ドリルを塗りつぶし、破く

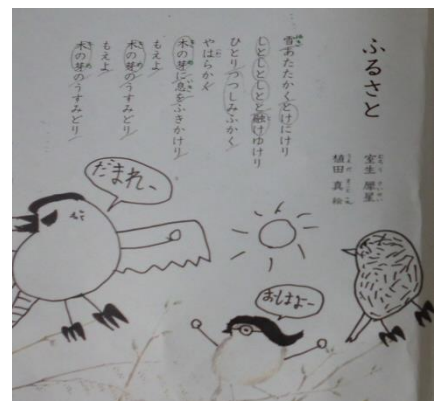
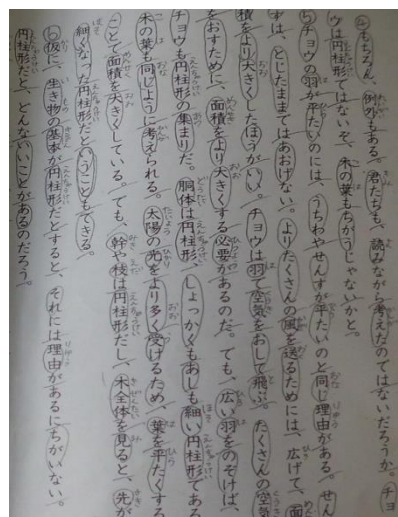
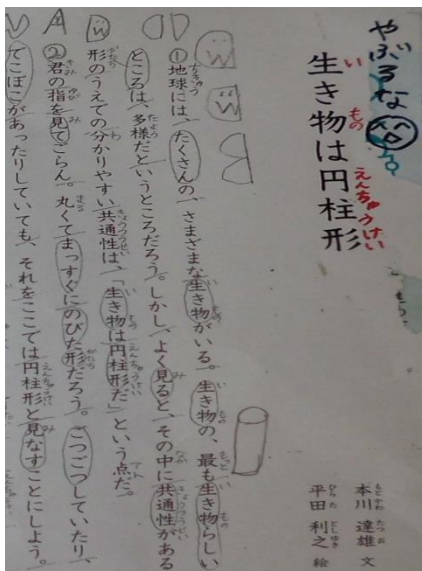


母が下書きした漢字ドリル用ノート



2. 読みの困り

音読をする時、漢字の読みが1つでも分からないと、読むのをやめてしまった。不安になり苛立ちで、教科書を破き、落書きをした。安心して読めるように、母が家でスラッシュを入れたり、ルビをふったりしていた。



4月 母がすべての文にスラッシュを付け、すべての漢字にルビをふった国語の教科書

「やぶるな」と母が書いている

苛立ちを落書きの絵の吹き出しに書いている

3. 不安などによる気持ちのコントロールの困り

教室が騒がしくなると、教室を飛び出す。たくさんの人が集まる朝会などには入れない。何をするか分からなかったり、思った通りにいかなかったりすると、黙ってしまったり泣いたり、苛立って本やノート、プリントを破いてしまったり、鉛筆の芯を折ったり、殴り書きをしたりした。カーテンに隠れたり、その場から飛び出し門から出て家に帰ろうとしたりした。新しい学習や活動などの見通しがもてないと不安になり、登校を渋った。漢字の宿題ができていない時も登校を渋った。不安や苛立ちが重なると、感情のコントロールがきかなくなって、怒ったり泣いたり叫んだりすることが頻繁にあった。

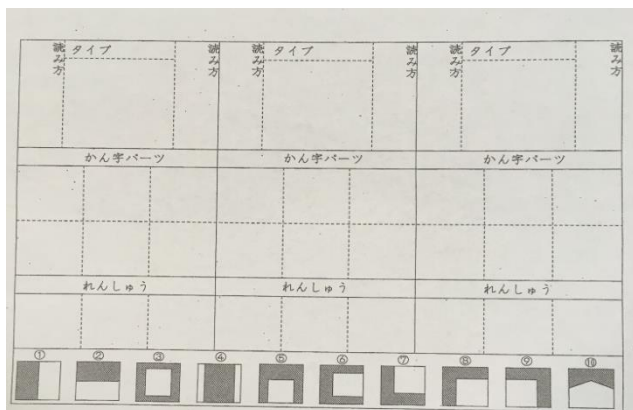
・活動の具体的内容

1. 書くためのツールと活動

・漢字の書きが分からない時、「Google」で「読み」から 検索したり、「筆順辞典」で書き順を確かめたりして書く。



・漢字の先行学習でパーツ別プリントに書いて覚える。



2. 読みの不安を減らすためのツールと活動

・漢字の読み方が分からない時、「タッチ&リード」「Google」「筆順辞典」を使って読み方を調べる。



3. 不安を減らし気持ちを落ち着かせるためのツールと活動

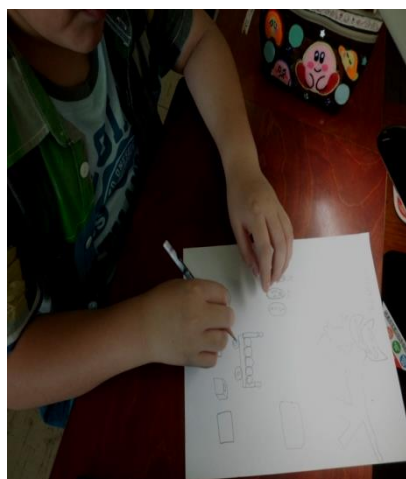
- ・感情を表す絵カードを使って、自分の気持ちを表す。
- ・得意な絵を描くことで気持ちを落ち着かせ、自分がしたいことや困っていることを知らせる。その絵をもとに、話をする。
- ・「何があったのかな?」「気になること」シートを使って振り返りをして、困ったことや分からないことに対し、どうするかなど考える。
- ・週末に、次週の予定表を見て、学習内容や行事の説明を聞いて、見通しを持つ。



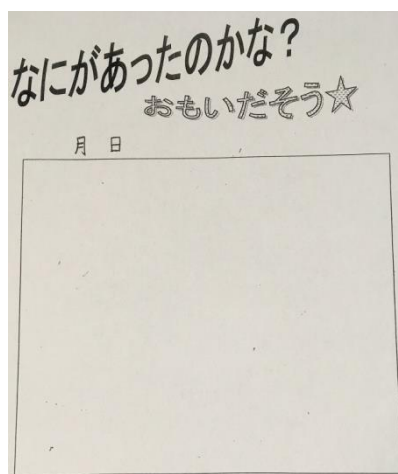
「感情の絵カード」を指さして自分の気持ちを示す



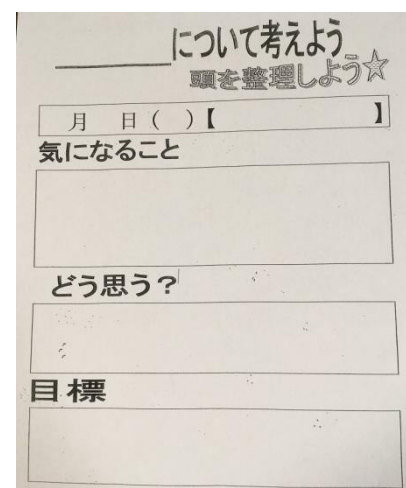
いろいろなことや困りを絵に描く



絵をもとに、説明する



「何があったのかな?」シート

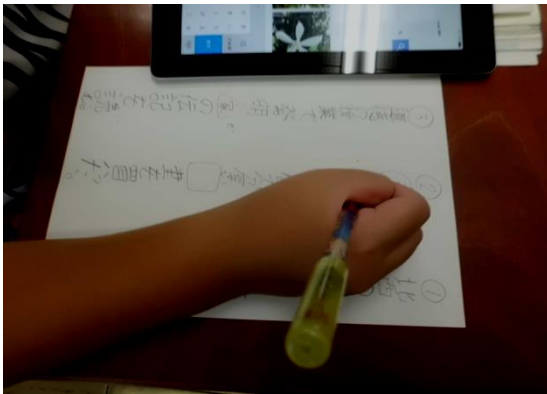


「気になること」シート

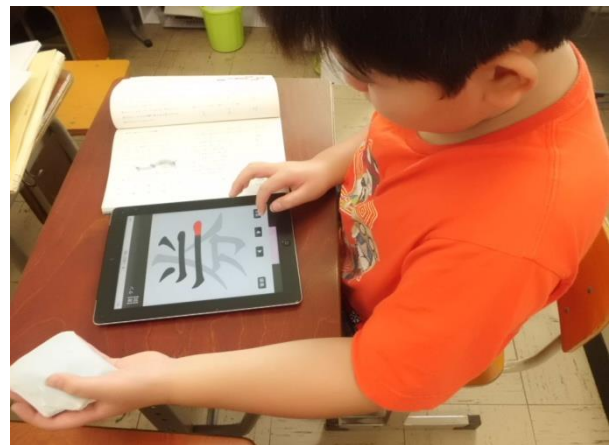
・対象児の事後の変化

1. 書くための活動

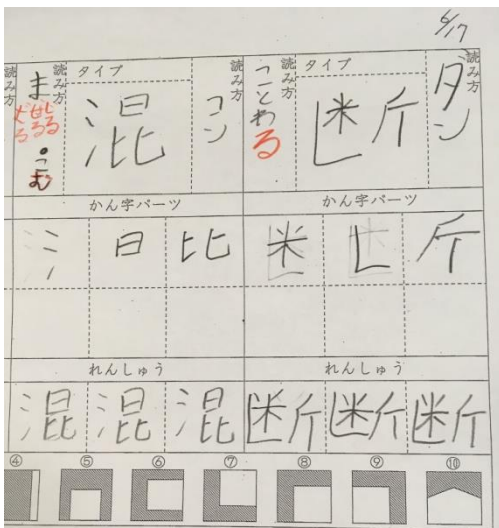
漢字の書きが分からない時、「Google」で検索したり、「筆順辞典」を使って、書き順を確かめて書いている。漢字の先行学習でパーツ別プリントに書いて覚えている。「分けて書くと簡単。覚えやすい。書ける。」と言って自信が出てきている。10月頃から、宿題の漢字ドリルに書き込んでいる。その後も、落書きをしながらも、漢字を調べて書き込んでいる。12月の漢字の50問まとめテストは、自分で書けたのは数問。落ち込まず、やる気をなくさず直しをした。タブレットを使って分からない漢字を調べて、10問を3分で書いた。「タブレットがあれば、大丈夫」と言って書き続けた。



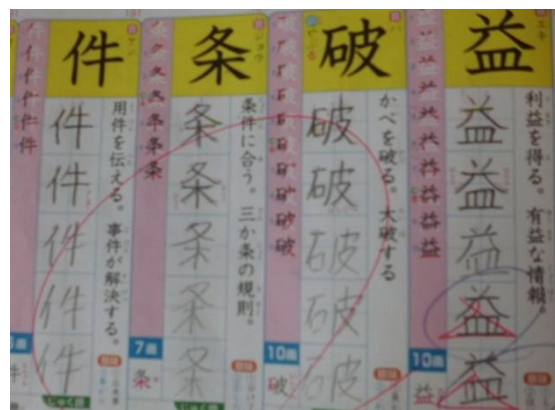
「Google」で漢字を検索して書いている



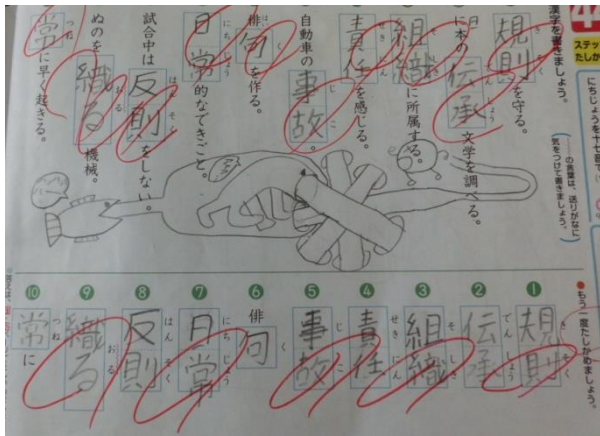
「筆順辞典」で書き順を確かめている



パーツ別プリントに書いて覚えている



10月 漢字ドリルに書き込んでいる



1 1 月 落書きをしているが、漢字を調べて書き込んでいる



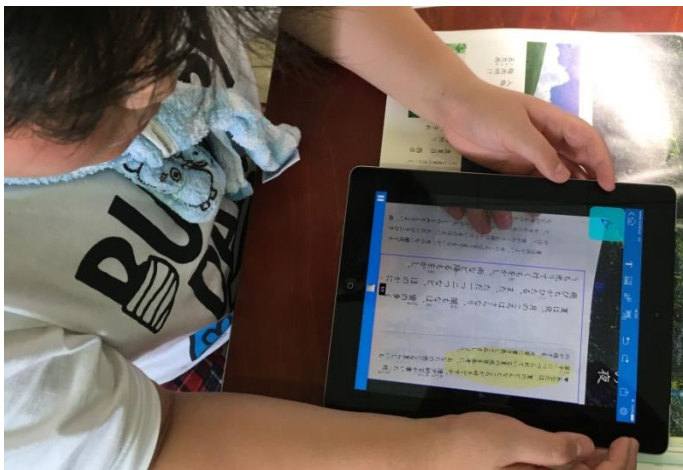
1 2 月 漢字を調べて書き込んでいる

2. 読むための活動

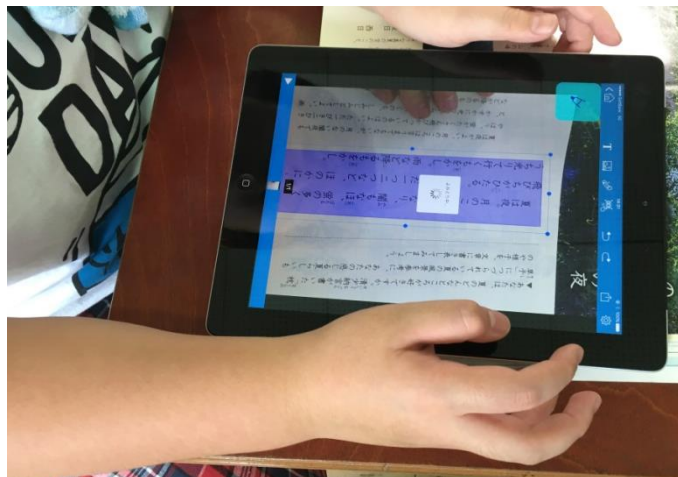
漢字の読み方が分からない時、「タッチ&リード」を使って、知りたい箇所を確定して、自分に合う速度に設定して音声を出し、漢字の読みを調べている。自分でルビをふったりもしている。家で母がしていたことを自分でするようになっていく。言葉の意味が分からない時にも「Google」で検索して確かめている。読みが分かるようになったことで、やめることなく、読み進めることができるようになった。



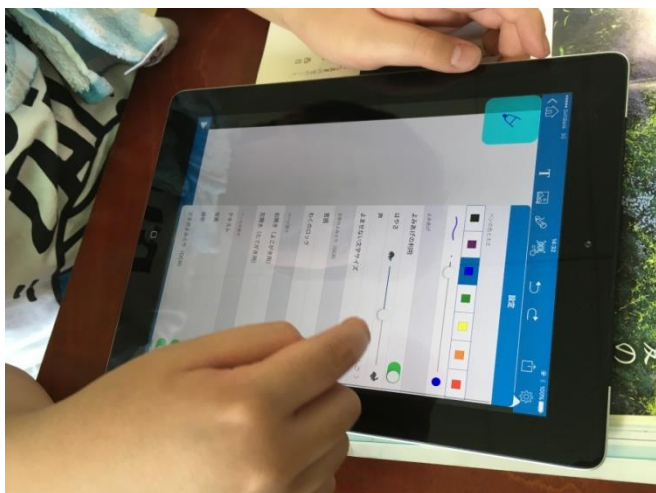
「Google」で意味や漢字の書きを調べる



「タッチ&リード」で知りたい箇所を確定する



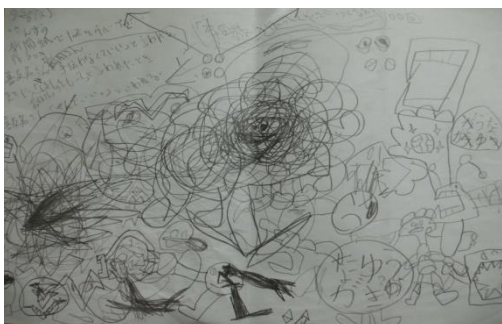
音声を出す



読む速度を調整する

3. 不安を減らし気持ちを落ち着かせるための活動

怒ったり泣いたりしていても、感情を表す絵カードを見せると、カードを指し示し、気持ちを表すようになった。絵を描くことで、自分がしたいことや困っていることを知らせ気持ちが落ち着くと、絵を見て話し出すようになった。



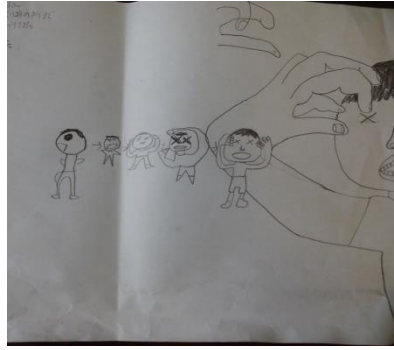
4月26日



4月28日

班活動をする時、「手伝わなくていい」と言われた。

暑かった。先生に言いにくかった。いらいらした。



5月6日

並び方が分からなかった

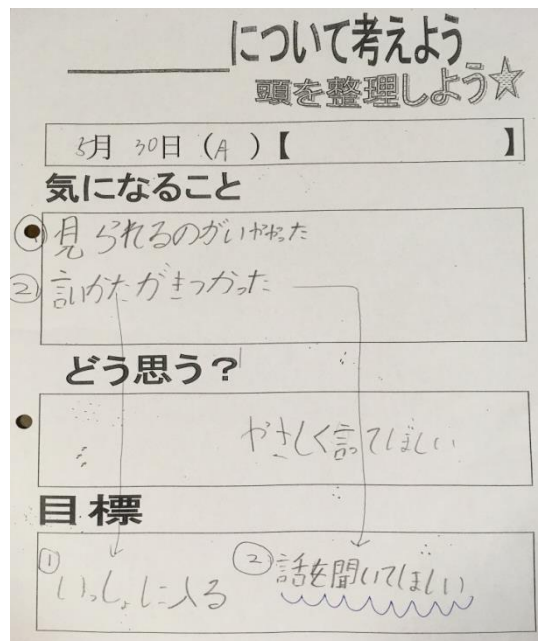
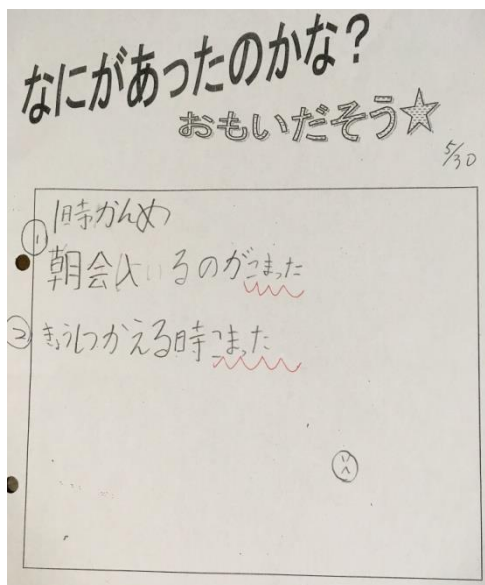
6月29日

教室が暑くて、うるさかった

8月29日

お腹が気持ち悪かった

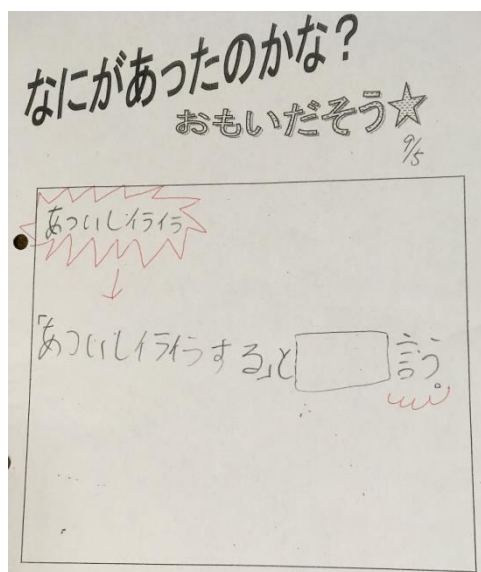
通級で「何があったのかな?」「気になること、こんな時どうする?」シートを使って振り返りをして、困ったことや分からないことに対し、どうするかなどを考えた。振り返りをしていく中で、「絵を描くと落ち着く」という思いを話し始めた。「教室でいらいらした時に、教室を出ていくのではなく絵を描くことで気持ちを落ち着かせる。」という方法を考えた。そのことを担任に伝え、「授業中、落ち着くように教室でも絵を描いてよい」ということになった。その後、いらいらしそうな時に、教科書やノート、プリントに絵を描いて気持ちを落ち着かせている。



5月30日 1時かんめ

- ① 朝会入るのがこまった
- ② きょうつかえる時こまった

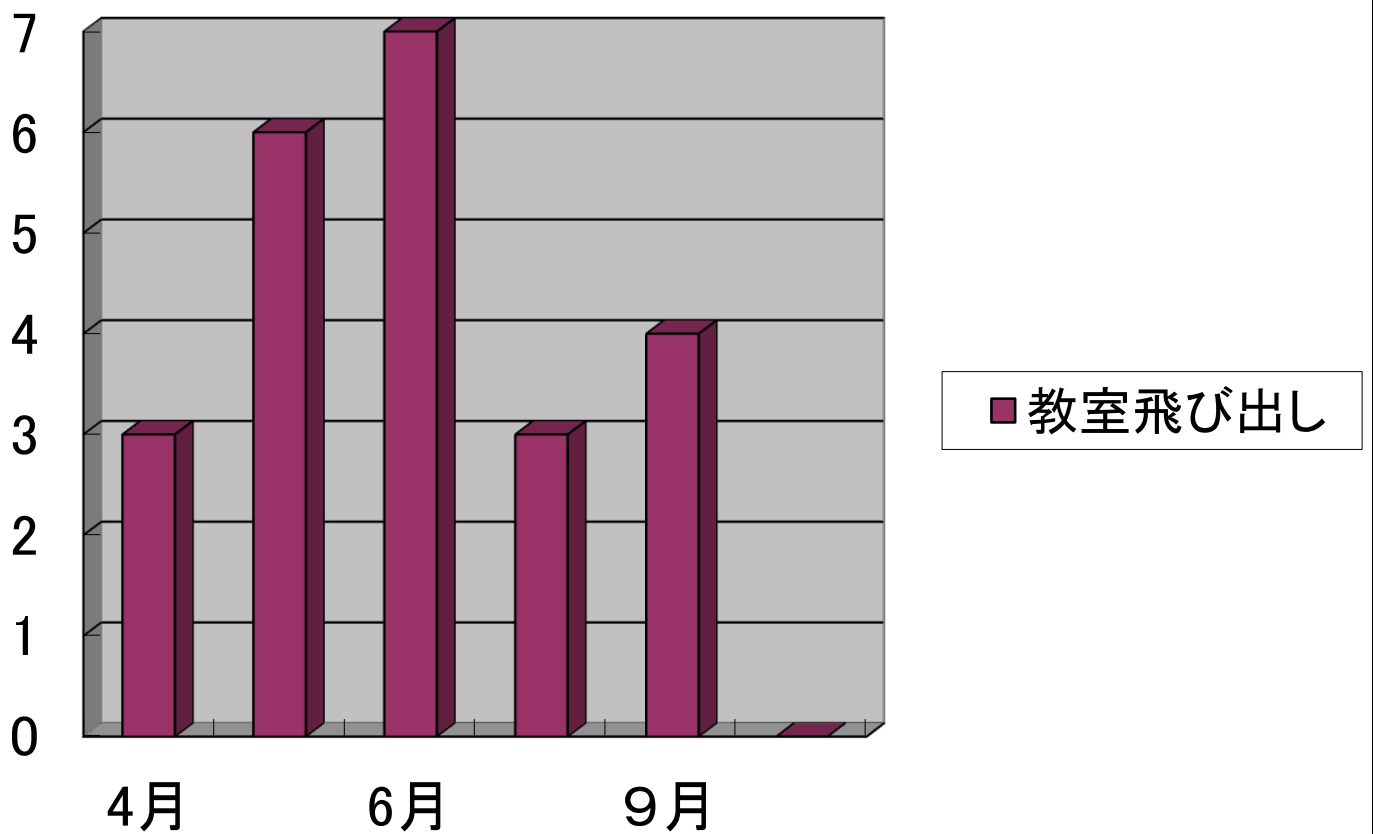
- ① 見られるのがいやだった ➡ いっしょに入る
- ② 言いたかきつがた ➡ やさしく言ってほしい
話を聞いてほしい



9月5日

あついしライラする ➡ 「あついしライラする」と言う

取組を続けることで、夏休み明けの9月の2週目以降教室を飛び出していない。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- 〈1〉 得意なタブレットを使って漢字の読み書きが分かることで、苛立ちが減り、落ち着くことができた。「これなら自分でできる」「この方法なら分かりやすい」という思いから、「タブレットがあれば大丈夫」と自信につながったのではないかな。
- 〈2〉 得意な絵を描き、気持ちを話すことで、落ち着くことができるようになった。また、前もって知ることで見通しを持つことができ、不安が減った。困った時にどのように対処すればよいか分かるようになったことで、更に、落ち着くことができたのではないかな。

・エビデンス

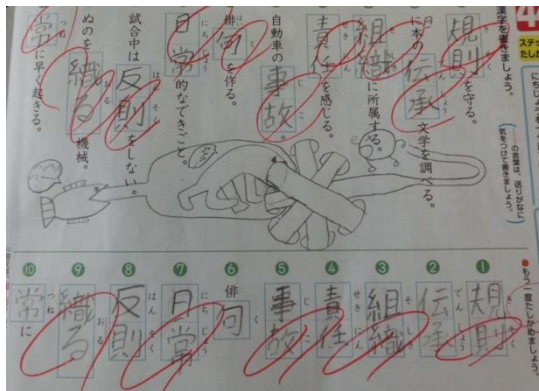
- 〈1〉 母の助けから始まり、タブレットと出会い、自分で調べようになった。漢字の宿題が出来るようになるにつれて、登校渋りが減っていき、後期の10月11日以降なくなった。自分に合う学習の仕方が分かり、気持ちが安定し、自信につながったのではないかな。



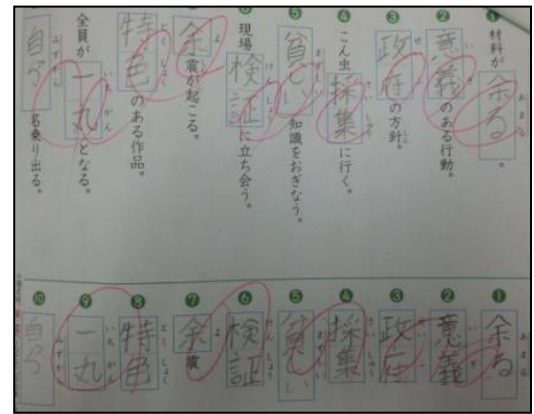
4月 ドリルを塗りつぶし、破く



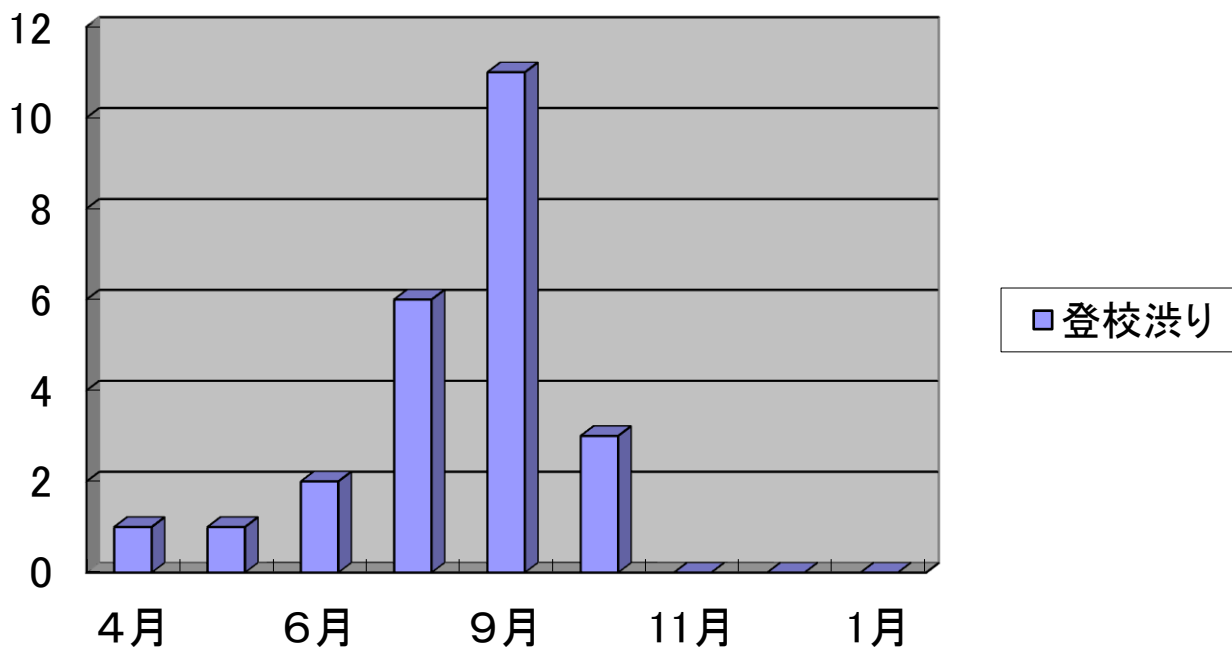
10月 なぞって 練習している



11月 落書きをしているが、書き込んでいる



12月 漢字を調べて書き込んでいる



〈2〉 対処の仕方が分かり、困りに向かう気持ちが出てきたのではないか。

担任の指示を聞いて分からない時、「どうするのですか?」と質問するようになった。書いたものが合っているか確かめたい時、「これで合っていますか?」と担任に聞けるようになった。

・その他エピソード

12月6日 研究発表会の日

他校から知らない先生が20名程参観している中、手を挙げて「どこに書くのですか?」「これで合っていますか?」と聞こえる声で担任に質問していた。

2月10日 「教えてもらう」から「教える」へ

通級に来ている下学年の書きの困りのある男児の話をする、「今は無理やけど、6年になったらタブレットの使い方を教える」と言った。

2月17日 部活バスケットの日

放課後、部活のバスケットに行く前に、5年生の教室で居残り学習をすることになっていた。本人は、残ることも何をするのかも知らなかった。バスケットの途中から入ることになる。以前は、見通しが持てないと、大変不安がった。部活のバスケットも途中から入ると、何をするか分からず、かたまって何もしないでいたり、体育館に入れずに帰ってしまったりしていた。この日の1時間目の通級で、「残って何をするのか、前もって、担任の先生に聞いておく?」とたずねると、「大丈夫。聞かなくてもいい。バスケットも、途中から入っても大丈夫やで。」と笑顔で言った。

「タブレットがあれば、大丈夫」

「前もって、聞かなくても大丈夫」

取組をすることで、2つの「大丈夫!!」という声を聞くことができた。